

おりひめちゃんが行く！

交野戦国絵巻

六の巻

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

廃小松寺と小松城

廃小松寺は、星田の山中にあった寺院です。平安・室町時代には立派な建物が並び、多くの僧侶を抱えた、交野で有数の山岳寺院でした。江戸時代に廃寺となると、廃小松寺にあった十一面観音立像（左写真）は星田寺に移されました。



廃小松寺周辺絵図(部分)

戦国時代、星田の山々に守られた廃小松寺は、砦と同等の役割を果たしたため、小松城として使われたと考えられています。

明治時代初めの絵図には、「堂跡嶺」という山の周りに「堂跡」・「鐘堂」と記されています。堂跡嶺には、守りを固めるために十分な高低差があり、絵図では周辺に石垣も描かれています。

廃小松寺の近くには、政治文化の中心の一つとなっていた飯盛山城があり、城を巡る戦いも幾度か起きていました。その戦いから、交野を守る城として利用されたのでしょうか。

現在に伝わる小松城

現在、廃小松寺跡はゴルフ場として整備されていますが、一角には「小松寺遺跡」と記された石柱があります。コース内には、「堂跡嶺」が小松山として残っており、昭和50年ごろまでは、礎石や土器が見つかっていました。

また、星田寺本堂前には、小松城主だった遠藤昌親の弟、昌俊（戒名＝勝海大徳）の一周忌である永禄6年（1563年）に建てられた五輪塔があります。



おりひめちゃん
の歴史コラム

土中に埋まった五輪塔の台座には、次の記述が刻まれています。
「永禄六年 勝海大徳
六月廿三日」



星田寺五輪塔



『小松寺遺跡』石柱

